

第7号 (1991.12)

Library Mate



向田邦子文庫

向田邦子文庫が大学図書館の一隅に開設されたのは1987年であった。ドアを開けると明るい光をうけて向田さんの遺影がほほえみかける。

3回忌に列席した時のことである。かねて友人たちの意向をくんで向田邦子研究の拠点はぜひ母校におきたいと考えていた私はまず向田さんのクラスメイトであり、当時小説新潮の編集長、現校閲部長の川野黎子さんにその意を伝え、遺族へ蔵書寄贈の口ぞえをお願いしたのである。それからほど経た10月のはじめであったろうか、当時の館長分銅惇作教授と今野千鶴子部長、芳賀圭子司書とあらためてお宅にお願ひに出むいた。ご遺族にとっては離れがたい思い出の数々であるにもかかわらず心よくご承諾いただき、ことは順調に進み、その年の12月をはじめにはすべての蔵書が図書館におさめられた。

短期大学 内尾久美
国文学科教授

ついで川野黎子さんから自筆原稿をいただき、森繁久弥氏のご好意による関係資料の借用もなあって鋭意整理は進められ、七回忌を前にして向田邦子文庫の開設ならびに向田邦子文庫目録の刊行となったのである。この時館長は伊藤広里教授、部長は城田秀雄氏に代わられていた。その秋の公開講座は七回忌にちなんで川野黎子さんの講演が行われ、来校者には図書館を公開、向田邦子文庫の披露ともなったのである。乞われるままに文庫開設の経緯を記したが、思えば関係部局はもちろんであるが多くの知友、先輩後輩の支援を忘れることは出来ない。

その後、本学を中心にして「向田邦子研究会」が誕生、その活動もめざましい。当初の願ひは着々と実を結び、いささかかわりを持った一人として大変嬉しく、今後ますますの充実と広く活用されることを願っている。



やさしさの中の怖さ「大根の月」より

図書館学課程非常勤講師 稲垣信子

向田さんの作品を読みはじめたのは比較的おそい。わたしの生硬な文章や一方的な物の見方に業を煮やした母が、「あなたも向田邦子のもので読んで少し勉強するといいいのよ」と言ったのは、ちょうどNHK・TVで「あ・うん」が放映されていた頃だった。それからたまたま「ドラマ人間模様」を観るようになったが、短い科白の中に深い人生を感じさせ、何気ない素振にその人の抑えた気持ちを表現させる巧みに舌を巻いた。演出家や出演者たちの力もあったと思うが、何よりも脚本が素晴しかった。タルコフスキーもその日記の中で、映画の良し悪しは脚本で決まると断言している。向田邦子原作のテレビドラマが高視聴率を上げていた所似であろう。

だが活字で向田文学に触れたのは、直木賞受賞作品「花の名前」「犬小屋」がはじめてだった。その後、このシリーズの掲載されている雑誌は必ず読んだ。中でも忘れられないのは「大根の月」である。『思い出トランプ』13篇の中で、わたしはこの作品がいちばん好きだ。

“大根の月”というのは、昼間の月のこと。向田さんはそれを“ビルの上にくす青い空があり、白い透き通った半月形の月が浮かんでいた。”と表現している。この大根の半月形から、主人公英子の祖母の冴えた庖丁捌き、真似して切ってもつい半月になってしまうので素早く口に入れる習慣、そしてお中元のハムを切る場面、さらに六歳になった長男健太の人指し指を誤って切り落す悲劇へとつながってゆく。英子はちょうど二人目の子どもをみごもっていたのだが、そのショックで流産してしまい、退院して帰った時には、愛用の庖丁も始末され、夫も姑も健太さえも白じらしい眼で見えるようになっていた。結局、離婚を前提とした別居に踏み切るが、肩を寄せ合うように生きてきた秀一と英子が子どもの指切断を境に急坂をころがり落ち

るように冷えてゆく過程が、大袈裟でもセンチメンタルでもなく、すいすいとさりげなく語られる。そこが怖い。行間に流れるものが刃となって読者の胸を射す。だが向田さんはそのままわたし達を突き放しはしない。ラストの一行を引用してみよう。思わず胸がこみあげる。

——空を見上げて、昼の月が出ていたら戻ろうと思い、見上げようとして、もし出ていなかったらと不安になって、汗ばむのもかまわず歩き続けた。

「大根の月」にはこの他にも、指という文字を見ると胸が痛む、という出だしの巧みさ、秀一の五円玉、十円玉をきっちりと仕分けて数える几帳面な性格、祖母に教わった庖丁砥ぎのコツ、ナフタリンの匂いをさせてぶら下る虫干しの着物や洋服をジャングルに見立てて怪獣のお面を被りはしゃぎ廻る健太など、寸分の間もない布石の積み重ねで、短篇作法のノウハウがいっぱい詰まっている。会話の鋭さは言わずもがな。

わずか20数枚の短編ばかりだが、『思い出トランプ』にはさまざまな怖さがやわらかな筆使いの中にそっと匿されている。まだ向田邦子の作品に接していない方は、この「大根の月」からはじめてみてください。病みつきになること必定です。



向田邦子研究会のこと

幹事・文学部教授 栗原 敦

専門学校時代の同期生、同窓生や様々な方のお力添えによって向田さんの遺蔵書寄贈のことが進められ、向田文庫と著作・参考文献目録を兼ねた優れた文庫目録が出来たのを機縁に、向田さんのお仕事をより深く理解し、一般にもさらに広め、文庫の一層の充実も側面から支援するような気持で、何か活動が出来ないだろうか、こんな願いから、昭和63年夏に学内の事務職員、図書館司書、教員計5名の有志で始めたのが向田邦子研究会です。

最初は、まだ収集されていない資料を求めること、人と仕事をめぐる語りつくされていない思い出などの記録、文庫の存在が広く知られることで一次資料はもちろんのこと、二次的な言及すなわち研究やエッセイ等の情報及び現物が寄せられることなどを期待して、〈公開講演会〉の開催を目玉に活動を開始しました。第1回が「家族熱」等のTBSのプロデューサー大山勝美さん、第2回はフリーライター時代に共同で事務所を開いて以来の友人、エッセイストの甘糟幸子さん、そして昨年が第3回がNHKの「あ・うん」等でのプロデューサー深町幸男さんでした。

一回目は仲々講師のお願いも出来ず困りましたが、前の年大学の公開講座で思い出を語っていただいた同級生、新潮社の川野黎子さんご紹介でようやくお引き受けいただいたのでした。奥様の渡辺美佐子さんが実践のご出身ということもあってご配慮下さったようでもありました。多くの方々に支えられていることに心から感謝しています。

今年は、大学・短大の公開講座の特別講演として、数年来の交渉が実って、プロデューサーの久世光彦さんの講演会が実現、これを会として後援しています。独自にポスターを作り、新聞の催物欄等に案内依頼、葉書その他で広く宣伝しているのです。

本学の学生会員や同窓生の方々の他に会員も広がり、併せて年数回催して来た研究読書会やビデオ鑑賞会にも平均20～30人が顔を見せてい

ます。昨年と今年は8月22日の命日に有志で墓参にも参りましたが、ちょうどおいでの弟保雄さんにもお会い出来ました。

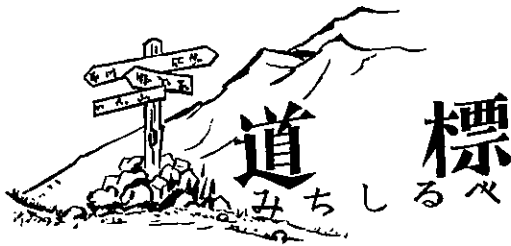
通信も随時発行、催しや関係文献紹介などを載せています。資料として連載した「映画ストーリー」記者時代の編集後記の紹介が出版関係者の目にとまり、この春『向田邦子・映画の手帖』（徳間書店）として刊行されたのは、思いがけない幸でした。

現在は、向田さんの没後十年にあたる今年を記念して、来春の完成を目指して研究会の会誌を作ろうと準備中です。

向田文庫がここにあることと、様々な便宜のため当面実践女子大内で事務連絡を扱っていますが、会員も規約も本学の内部にとどまらない自由な広がりをもっていますので、いずれ異った展開も見られるだろうと思います。

向田邦子研究会作成ポスター





向田邦子文庫

向田邦子さんが亡くなって今年は十年目にあたる。最近、向田さんの貴重な講演録が、雑誌と共にカセットテープで売り出され、肉声を聞くこともできる。公開講座での久世光彦氏の講演、学園祭での栗原敦先生・半澤幹一先生の対談、映画の上映など催し物も盛り沢山である。

また、12～1月にかけて渋谷の西武デパートで、「向田邦子の世界」展が開催されることになり、本学もこれに協力する。

ところで、毎年受験者が図書館を見学し案内する機会も多いが「寺内貫太郎一家」をテレビで見たことがない世代になってきているのである。同時代人としての向田邦子という意味合いでは、遠くなりつつあるかも知れない。

1. 成り立ち

昭和57年(1982)年、南青山のマンションに残された図書を遺族より御寄贈いただいた。亡くなる半年前に大部分は処分してしまったということだった。旧蔵書と共に本学図書館が参考文献等を収集し、「向田邦子文庫目録」の完成に合わせて向田邦子文庫を開設した。

2. 特徴

向田邦子文庫は、(a)著作(図書の初版、雑誌掲載)(b)台本(「重役読本」等、文化勲章を受賞された森重久彌氏からの寄託資料もある)(c)参考文献(研究書、雑誌記事等)(d)旧蔵書の4種から構成されている。

「向田邦子文庫目録」は、著作については必要な情報を全て記録し残そうとの意図のもとに、通常の目録では必要とされていない図書の帯、目次、挿絵等細かな情報を採録してある。次に目録に記載された文献名の並びが、そのまま著作及び研究(言及されているものを含む)年譜を形成している。

3. 利用の方法

向田邦子文庫は特殊コレクションとなっているので、「特殊コレクション閲覧許可願」に記入し申込んでください。

図書館の仕事〈7〉

資料保存への対応

酸性紙が劣化するとボロボロと崩れることはご存知でしょう。明治から昭和初期までの図書・雑誌・新聞は素材の化学的不安定のために、今その危機にあります。紙という素材に限らず、フィルムや磁気テープも例外ではありません。ニトロ・セルロース系の映画フィルムは粉末化と自然発火、アセテート系ネガ・フィルムのベースと感光膜の剝離、磁気テープの硬化と劣化などが身近におきています。かつてのオープン・リールで使用された磁気テープはとくに劣化が進んでいます。これらの原因としては高温・多湿、乾燥、埃、光のほかカビ、害虫などによることも多くあります。これらは異なる原因で異なる劣化を引き起しており、蔵書の量が増えるに比例して問題も複雑になってきます。

保存のための対策としては、劣化した資料の

マイクロ化が広く行われています。これは新聞・雑誌・古典籍など、日常の取扱いの上からも傷みやすいので有効な手段ですが、原資料への直接的な対策ではありません。紙資料については脱酸処理が行われますが、相当な設備が必要であり容易ではありません。資料の劣化を早めない為に温・湿度、埃、カビ、虫などについて常に注意を払うことです。最近では貴重書室や展示ケースの採光も、褪色防止用の蛍光灯を使用したり、また部屋のガラスに特殊なシートを貼って褪色を防ぐなど対策を講じています。

国立国会図書館では、IFLA. PAC(国際図書館連盟 資料保存コア・プログラム)のアジア地域センターに指定されています。その活動として昨年には、第1回資料保存シンポジウムを開催しています。

ブック★ストック

—歳書ガイド—

—洋製本雑誌（今年度購入分の一部）—

『ザ・リポジトリ・オブ・アーツ』全40巻

Ackermann, Rudolph.

The Repository of Arts, Literature,

Commerce, Manufactures, Fashions and Politics.

London, 1809-1828, 40 vols.

英国19世紀婦人服流行誌

*19世紀初頭から発刊されたイギリスのもっとも著名、かつ代表的なファッション雑誌で、発行者の名前をとって俗に『アッカーマン』或いは『アッカーマンの宝庫』とよばれています。内容は一種の婦人向総合雑誌であるが、婦人にもっとも関心の高い服装の流行、装身具、編物などの記事や図版が中心となっています。内容は単に流行の服装を紹介するだけのものではなく、文学、芸術、室内装飾、家具類をはじめ、紀行、風物、スポーツに至る広範な記事と図版を含んでいます。図版は総1,498枚、うち、コスチューム・ファッションの手彩飾銅版、或いは石版画は500枚から収録されています。特に本誌では、かつて市場に出たことのなかったレース織物布地見本が各号に四種づつ貼り込まれた完本で、今日では稀覯本といえます。本誌は3期に大別して刊行され、第1期は1809年の創刊に始まって、1815年12月迄の14巻、第2期は翌1816年1月から1822年12月に終わる14巻、第3期は1823年1月から1828年12月に至る12巻、計40巻。

*完結した雑誌は集密書庫に収納されているためカウンターでの手続が必要です。

『Art Bulletin』

College Art Association 年4回刊行

美術史に関する新しい研究成果を収録した学術雑誌。

1912年から現在までを購入、現在も継続されています。新着分は地下1階の雑誌架に展示され、バックナンバーは地下1階洋製本雑誌の書架に配架されていますので、自由に手にとって閲覧できます。

『Art Journal (London)』

Published by George Vitue, London. 1849-1912. Folio Bound in 64 vols. Note : Vols. 1-10 (1839-1848) as Art-Union.

1839年の創刊号から1912年の終刊号までを購入。完結した雑誌ですので集密書庫に収納。なお、下記の『Art Journal (New York)』と間違えないように注意してください。

『Art Journal (New York)』

College Art Association 年4回刊行

現代の芸術に関する批評、美学における問題等を取り扱った雑誌。

1914年から現在までを購入、この雑誌も現在継続して出版されています。

『Art Quarterly』

The Founder Society Detroit Institute of Arts, Michigan.

Original Series : Vols. 1-37/no. 1 (1938-1974)

New Series : Vols. 1-2 /no. 2 (1977-1979)

1938年の創刊号から1979年の終刊号まで全39巻を購入。

美術史の分野を扱い、その研究対象は時代・地域の枠を越え、資料・図版等もふんだんに盛り込まれた雑誌。

特に、アメリカとカナダの美術館・博物館・大学研究機関に、新たに収集された美術品については図版が掲載されており、美術史家・学芸員にたいし、有益な学術的注釈を提供しています。

1974年財政逼迫から休刊したが、1977年復刊、しかし1979年廃刊となる。

**「RILA」が「BHA」と名称変更！

今まで洋雑誌の文献調査に利用していた「RILA : International Repertory of the Literature of Art」が「BHA : Bibliography of the History of Art」と誌名が変更になりました。書架上の位置は今までと変わりませんが、表紙の色が今までの茶色から青に変わりましたのでご注意ください。

Library Mail

— 収書 ガイド —

向田邦子文庫目録」刊行後、文庫に収集された資料のうち、代表的な向田邦子関連記事を掲載します。配列は刊行年月の順です。

特集 向田文庫開設を記念して

会報 40号 [日野]実践女子大学実践女子短期大学後援会 1988.1.30 p114~142 21cm
向田さんと川野さん 内尾久美述. 講演 向田さんを偲んで 川野黎子述. 特別寄稿 向田邦子のいる風景 飯島敏宏著. 向田さんの思い出 水垣洋子著

作家研究★同時代 TV ドラマ脚本家の世界 第1章 生活を美学に 向田邦子(1)ラジオ時代 鳥山拓

ドラマ 11巻1号(通巻115号) 東京 映人社 1989.1 p26~35

黄色の薔薇 向田邦子論文集 [東京] 明治大学井上謙ゼミナール [1989.2] 60, [10]p 26cm

内容: 向田邦子へのメッセージ 井上謙著. 向田邦子さんと旅 三浦茂著. 作品と人生(配合の魅力) 堀越千晴著. 『ダウト』に見られる向田邦子の技法 尾上研著. 向田邦子と映像の世界 陳承喜著. 『大根の月』を読んで 鈴木文雄著 向田邦子と故郷 鈴木啓之著. 『だんだら坂』を読んで 矢嶋美泉著. 『あ・うん』論—等身大の昭和史 西山葉子著. 『思い出トランプ』を読んで 日下部雅人著. 「はめ殺し窓」—家庭— 岩上祐子著. 秘められた生の叫び—向田邦子雑感 松寿敬著. 向田邦子年譜 樋口敬雄編

作家研究★同時代 TV ドラマ脚本家の世界 第1章 生活を美学に 向田邦子論 第2回 鳥山拓

ドラマ 11巻2号(通巻116号) 東京 映人社 1989.2 p38~47 21cm

作家研究★同時代 TV ドラマ脚本家の世界 第1章 生活を美学に~官能の自由へ 向田邦子論 第3回 鳥山拓

ドラマ 11巻3号(通巻117号) 東京 映人

社 1989.3 p42~49 21cm

作家研究★同時代 TV ドラマ脚本家の世界 第1章 生活を美学に~官能の自由へ 向田邦子論 最終回 鳥山拓

ドラマ 11巻4号(通巻118号) 東京 映人社 1989.4 p72~76 21cm

テレビドラマと向田邦子 「幸福」「家族熱」を中心として 大山勝美著 日野 向田邦子研究会 1990.1.27 24p 26cm

遅刻 向田邦子ふたたび 連載第1回 久世光彦

カードエイジ 4巻3号(通巻32号) 東京 ジェーシービー 1990.4 p92~93 26cm

財布の紐 向田邦子ふたたび 連載第2回 久世光彦

カードエイジ 4巻4号(通巻33巻) 東京 ジェーシービー 1990.5 p116~117 26cm

「漱石」(その1) 向田邦子ふたたび 連載第3回 久世光彦

カードエイジ 4巻5号(通巻34号) 東京 ジェーシービー 1990.6 p90~91 26cm

「漱石」(その2) 向田邦子ふたたび 連載第4回 久世光彦

カードエイジ 4巻6号(通巻35号) 東京 ジェーシービー 1990.7 p94~95 26cm

「名前の匂い」(その1) 向田邦子ふたたび 連載5回 久世光彦

カードエイジ 4巻7号(通巻36号) 東京 ジェーシービー 1990.9 p116~117 26cm

「名前の匂い」(その2) 向田邦子ふたたび 連載6回 久世光彦

カードエイジ 4巻8号(通巻37号) 東京 ジェーシービー 1990.10 p116~117 26cm

「爪」(その1) 向田邦子ふたたび 連載第7回 久世光彦

カードエイジ 4巻9号(通巻38号) 東京 ジェーシービー 1990.11 p116~117 26cm

「爪」(その2) 向田邦子ふたたび 連載第8回 久世光彦

カードエイジ 4巻10号(通巻39号) 東京

- ジェーシービー 1990.12 p92~93 26cm
 「昔の大将」(その1) 向田邦子ふたたび 連載
 第9回 久世光彦
 カードエイジ 5巻1号(通巻40号) 東京
 ジェーシービー 1991.1 p92~93 26cm
 「昔の大将」(その2) 向田邦子ふたたび 連載
 第10回 久世光彦
 カードエイジ 5巻2号(通巻41号) 東京
 ジェーシービー 1991.3 p116~117 26cm
向田邦子 十年目の遺産 巻頭特集
 ザ・ビッグマン 2巻4号 東京 世界文化
 社 1991.4 p10~31 28cm
 人間は生きている時だけの付き合いじゃない
 久世光彦談。TVドラマの流れを変えた向田
 作品の系譜。向田ドラマの秀逸なパターンを
 読む。台詞の行間に埋め込まれた『あ・うん』
 の魅力 深町幸男著。向田邦子が描こうとし
 た「家族・心・人間」。当代随一の文章家が絶
 賛した向田文学・エッセイの真髄。ガンの手
 術後、向田さんの生き方は変わった 布勢博一
 著
 「春が来た」(その1) 向田邦子ふたたび 連載
 第11回 久世光彦
 カードエイジ 5巻3号(通巻42号) 東京
 ジェーシービー 1991.4 p92~93
 「春が来た」(その2) 向田邦子ふたたび 連載
 第12回 久世光彦
 カードエイジ 5巻4号(通巻43号) 東京
 ジェーシービー 1991.5 p116~117 26cm

- 木槿** 近畿大学向田邦子研究会編 [東大阪]
 近畿大学向田邦子研究会 1991.5 20p 21cm
 内容：『木槿』の誕生 井上謙著 「かわうそ」
 とのたわむれ—人物命名考 松寿敬著。私の中
 の向田邦子 西村律子著。何気なく… 四
 宮美紀著。向田邦子と私 仲野香著。私と彼
 女 亀谷奈津子著。向田邦子・20歳の原点
 島村香苗著。〈向田邦子作品目録〉—銀座百点
 編
 「私立向田図書館」(その1) 向田邦子ふたたび
 連載第13回 久世光彦
 カードエイジ 5巻5号(通巻44号) 東京
 ジェーシービー 1991.6 p92~93 26cm
 「私立向田図書館」(その2) 向田邦子ふたたび
 連載第14回 久世光彦
 カードエイジ 5巻6号(通巻45号) 東京
 ジェーシービー 1991.7 p92~93 26cm
 「ゆうべの残り」(その1) 向田邦子ふたたび
 連載第15回 久世光彦
 カードエイジ 5巻7号(通巻46号) 東京
 ジェーシービー 1991.9 p116~117 26cm
 「ゆうべの残り」(その2) 向田邦子ふたたび
 連載第16回 久世光彦
 カードエイジ 5巻8号(通巻47号) 東京
 ジェーシービー 1991.10 p116~117 26cm
 「おしゃれ泥棒」(その1) 向田邦子ふたたび
 連載第17回 久世光彦
 カードエイジ 5巻9号(通巻48号) 東京
 ジェーシービー 1991.11 p116~117 26cm



❁❁❁ いんふお-め-しょん ❁❁❁

1991年12月～1992年3月

大学図書館

特別貸出

家政学部卒論・修論

期間：11/1(金)～12/2(月)

冊数：10冊

冬休み

期間：12/12(木)～1/16(木)

冊数：5冊

冬休み中の開館

開館日 12/21(土)、24(火)、1/6(月)～9(木)

時間 9:00～16:00

試験期の開館

開館時間延長の予定 詳細は掲示でお知らせします。

試験期の貸出

1/16(木)～2/1(土) 1日貸出

試験終了後の開館

開館日 2/12(水)～15(土)

※以後蔵書点検・館内工事予定のため未定
詳細は掲示でお知らせします。

集密書庫利用の変更

教職員・大学院生は入庫可となりました。

時間 9:00～閉館30分前

手続 カウンターに申込む

入庫 入庫記入帳に記入→入庫証を受取る

出庫 入庫証返却→記入帳に出庫時間記入

※資料を持ち出す時＝書庫出納票に記入

「向田邦子の世界」展のお知らせ

資料提供：実践女子大学図書館

会場：西武百貨店渋谷店B館8階

会期：1991年12月30日～1992年1月14日

※特典として、実践女子大学・短期大学・中・高等学校の身分証明提示の場合、割引があります。

短期大学図書館

特別貸出

冬休み

期間：12/12(木)～1/16(木)

冊数：図書 5冊

※雑誌・ビデオは20(金)～

春休み

期間：2/1(土)～4/11(土)

※2年生＝3/19(木)

冊数：図書 5冊

冬休み中の開館

開館日 12/21(土)、24(火)

時間 9:00～16:00

試験期の開館（1月中のみ時間延長）

月～金 9:00～17:45

土 9:00～16:00

試験期の貸出

1/11(土)～14(火) 3日間貸出

1/16(木)～31(金) 1日貸出

試験終了後の開館

※入試および蔵書点検のため未定 /

編集後記

第7号は向田邦子特集です。年2回発行の館報も日常業務をこなしながらとなると結構忙しいものです。発行と同時に次のテーマについて編集会議、誰に原稿を依頼するかを決め依頼状を出します。テーマを決めるのが一苦勞、いいテーマがありましたら編集委員へ。

Library Mate 第7号 1991年12月

発行所 実践女子大学図書館

東京都日野市大坂上4-1-1

実践女子大学図書館短期大学分室

東京都日野市神明1-13-1

発行責任者 宮澤文雄